

鶴見区在宅医療連携拠点事業

つるみ在宅ケアネットワーク 第13回公開勉強会報告書

日時 平成29年11月11日(土) 13:30~16:30

場所 鶴見公会堂

13:30 開会の辞 鶴見区医師会 会長 原 直



13:35 1部 杉山先生監修 DVD
「認知症と向き合う」 視聴

基調講演

『認知症 受け止め方・支え方』

講師：認知症の人と家族の会 神奈川県支部 代表
川崎幸クリニック 院長 杉山 孝博 先生

- 1、「ぼけても心は生きている」
- 2、認知症の人を抱える家族の変化
- 3、「認知症をよく理解するための
9 大法則・1 原則」
- 4、認知症の予防



15:15 2部 シンポジウム 「認知症の方と家族を地域でどう支えるか」

座長 挨拶

済生会横浜市東部病院 認知症疾患医療センター長 後藤 淳 先生



鶴見区福祉保健センター 福祉保健課長 小黒 大治 氏

- ・区内高齢者の現状
- ・認知症 6300人（市内3位）
- ・対策 専門医により保健相談、早期に相談



渡辺医院 院長 渡辺 雄幸 先生
(認知症サポート医)

- ・認知症は病気（人格が悪いわけではない）
- ・誰でも認知症になる
- ・治療の目的（その人が心やすらかに過ごすこと・治すことは難しい）
- ・困った時には相談する（地域ケアプラザ・さわやか相談室）
- ・本人家族を支える（多職種チーム・地域での対応）



潮田中央地区民生・児童委員協議会 黒澤 弘子 氏

- ・徘徊者を保護する事が多い
- 実際の気づきと対応
- 「あれ？」髪型の乱れ、目線の違い、季節にそぐわない服装、靴が大きい、歩くことに一生懸命
- 「声かけ」挨拶 → 自分の名前を言う → その人に合わせて一緒に歩く → どこかに腰掛ける → お水やお茶を飲ませる（目を離さない） → 話してみる → どこに行くの？ → どこから来たの？（大丈夫が口癖） → 警察に連絡



キャラバンメイト 川副 栄子 氏

- ・認知症を正しく理解
- ・他人ごとではなく自分の問題
- ・認知症サポーターになりませんか？（サポーター=応援者）



15:50 ディスカッション



- ・ 独居の人を診察につなげるには
- ・ 認知症予備軍

他 事前に伺っていた質問事項についてのディスカッションが行われた

16:20 まとめ

済生会横浜市東部病院認知症疾患医療センター センター長

後藤 淳 先生

認知症を知る。患者を知る。一人で支えないでみんなで支える。
不幸ではない、尊厳をもってその人らしい生活を送れるような
地域の支援を。



16:25 閉会の辞

鶴見メディカル第2訪問看護ステーション 管理者 飛鳥田 直子



出席者 262名

医師6名 歯科医師5名 薬剤師1名 行政5名

病院地域連携室0名

地域包括支援センター12名

サービス事業者・その他30名

一般169名

スタッフ34名